

中小企業景況レポート vol.48

2016.7~9

業況判断D I 7月~9月は3期連続のマイナス

【2016年7月~9月期の業況判断D I】

今回調査期間における全業種総合の業況判断D Iは $\Delta 2.8$ と前回調査比で5.3ポイント上昇しましたが3期連続でマイナスとなりました。

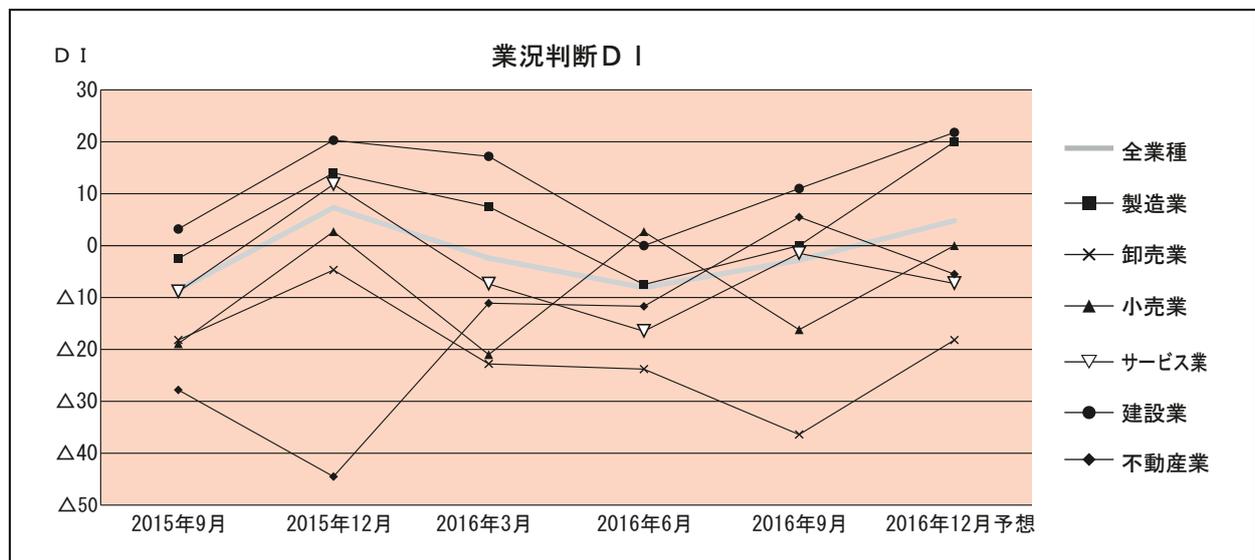
前回調査比でサービス業、建設業、不動産業の3業種が10ポイント超の大幅上昇となりましたが、卸売業、小売業で10ポイント超の大幅低下となり、全業種総合の業況判断D Iはマイナスにとどまりました。

【2016年10月~12月期の予想業況判断D I】

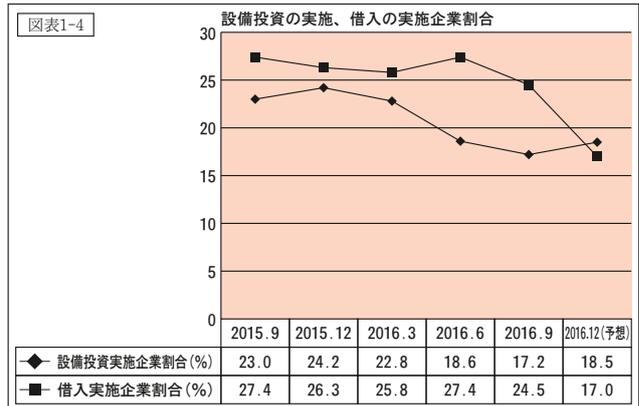
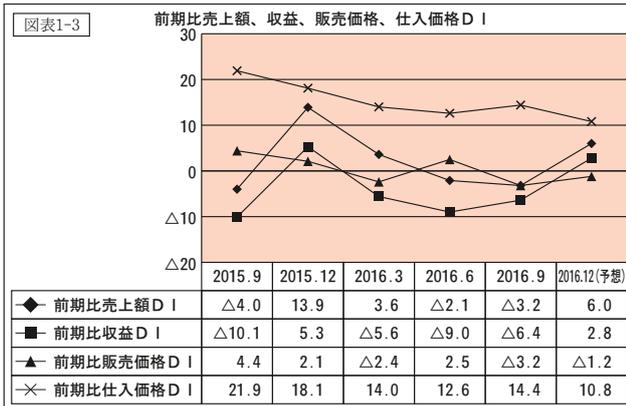
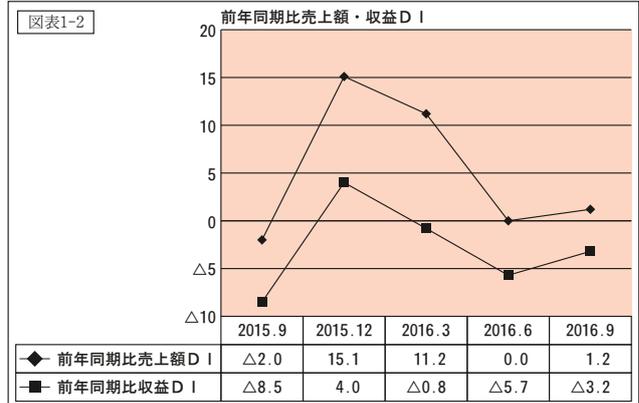
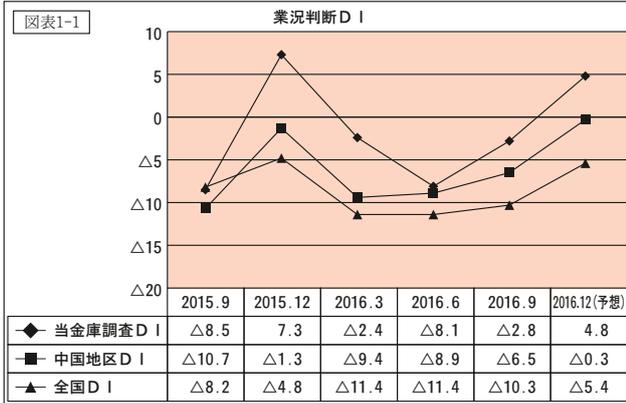
次回調査期間の業況判断D Iは全業種総合で4.8(今回調査比7.6ポイント上昇)とプラス予想となっています。今回調査比で、製造業が20.0ポイントの大幅上昇予想、卸売業、小売業、建設業が10ポイント超の大幅上昇予想であり、D Iを引き上げる要因となっています。

業種名	時期	2016年 4月~6月	2016年 7月~9月		2016年 10月~12 (見通し)	
全業種総合		$\Delta 8.1$	5.3	$\Delta 2.8$	7.6	4.8
製造業		$\Delta 7.5$	7.5	0.0	20.0	20.0
卸売業		$\Delta 23.8$	$\Delta 12.6$	$\Delta 36.4$	18.2	$\Delta 18.2$
小売業		2.7	$\Delta 18.9$	$\Delta 16.2$	16.2	0.0
サービス業		$\Delta 16.5$	15.0	$\Delta 1.5$	$\Delta 5.8$	$\Delta 7.3$
建設業		0.0	11.0	11.0	10.8	21.8
不動産業		$\Delta 11.7$	17.2	5.5	$\Delta 11.0$	$\Delta 5.5$

景況天気図の目安
 D I 好調 ← 30以上 (sun icon) 10以上30未満 (cloud icon) 0以上10未満 (cloud icon) $\Delta 10$ 以上0未満 (cloud icon) $\Delta 30$ 以上 $\Delta 10$ 未満 (umbrella icon) $\Delta 30$ 未満 (umbrella icon) → 低調



全業種総合



景況 ～業況判断D I 3期連続のマイナス～

今期の業況判断D Iは全業種総合で△8.1→△2.8と前回調査比**5.3ポイントの上昇**となったものの、3期連続でマイナスとなりました（図表1-1）。前回調査比でサービス業、建設業、不動産業の3業種が10ポイント超の大幅上昇となりましたが、卸売業、小売業で10ポイント超の大幅低下となるなど業種によってばらつきが大きくなりました。また、次回調査期間（2016年10月～12月）の業況判断D Iは△2.8→4.8と今回調査比**7.6ポイントの上昇予想**で、D Iもプラス予想となっています。

中国地区D I（△6.5）、全国D I（△10.1）も同様に上昇となっていますが、当金庫調査エリアの景況感の方が上回っています。

前年同期比売上額D Iは1.2、同収益D Iは△3.2となっており、1年前と比較して売上の回復に対し収益性が低いことが窺えます（図表1-2）。一方、前回調査との比較である前期比売上額D I（△3.2）、同収益D I（△6.4）ともにマイナスであり、景況感は回復傾向であるもののまだ低調であることが窺えます。（図表1-3）。

今回調査期間で設備投資を実施した企業の割合は17.2%となり、前回調査比1.4ポイントの低下、借入を実施した企業の割合は24.5%と前回調査比2.9ポイントの低下となりました。

設備投資を予定している企業の割合は18.5%と今回調査比1.3ポイントの上昇、借入を予定している企業の割合は17.0%と今回調査比7.5ポイントの低下となっており、資金需要は弱含みとなっています（図表1-4）。また、設備状況の見通しを「やや不足」「不足」と判断している企業のうち、設備投資を行わないと回答している企業が38.9%と、前回調査比16.7ポイントの大幅低下となっており、設備投資意欲が高まっていることが窺われます。

おかやま信用金庫からのお知らせ

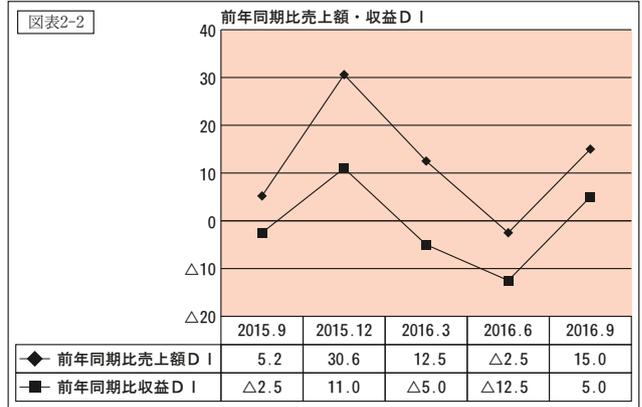
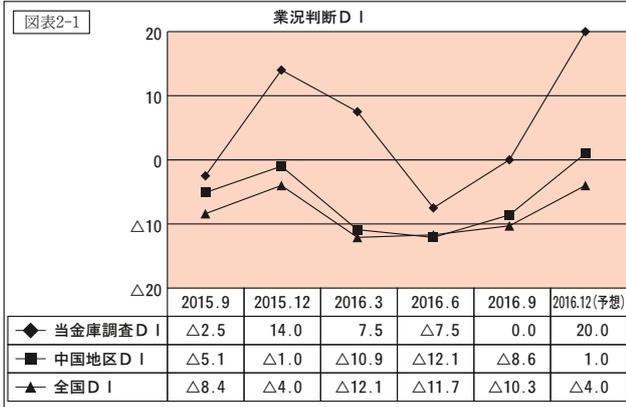
「おかやましんきん職域サポート契約」制度のご案内

「おかやましんきん職域サポート契約」は、ご契約いただくと、当該事業所で働いておられる役員、従業員の皆様が、当金庫の指定するローン商品を優遇金利にてご利用いただける制度です。ぜひ御社の福利厚生サービスの一環として、本制度をご活用ください。

- ◆ 契約要件
 - ・当金庫営業区域内にある法人（個人事業主は不可）
 - ・当金庫との取引の有無は問いません
- ◆ 利用いただける従業員の方の要件
 - ・契約締結事業所の代表者、役員及び従業員（非正規雇用者も含む）
 - ・申込時年齢が20歳以上
- ◆ 契約期間
 - ・原則1年の自動更新

対象となるローン商品等、詳しくは各支店の担当者、もしくは営業支援部（086-223-7672）までお問い合わせください。

製造業



景況 ～今期上昇 来期は更に大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは $\Delta 7.5 \rightarrow 0.0$ と前回調査比**7.5ポイントの上昇**となりました(図表2-1)。

来期の予想業況判断D Iは $0.0 \rightarrow 20.0$ と**20.0ポイントの大幅上昇予想**となっています。

12月14日に日銀岡山支店から発表された「岡山県金融経済月報」(以下、「日銀月報」)では、県内主要製造業の生産は「持ち直している」との判断となっています。9月時点では前月比県内鉱工業生産指数が4か月連続で上昇していることなどから今後県内製造業の回復が期待でき、下請け中小企業の景況感も高めに推移するものと考えられます。

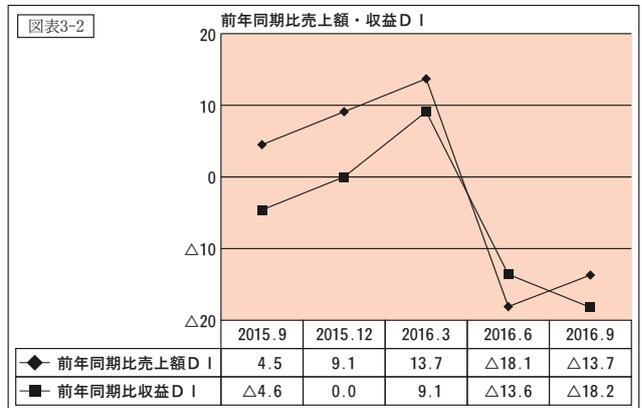
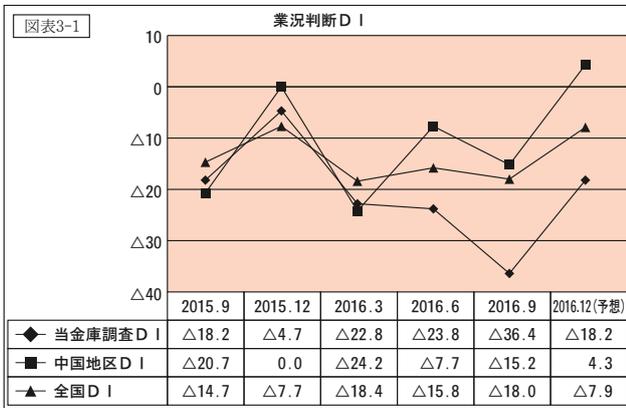
経営上の問題点では、「同業者間の競争の激化」「人手不足」は前回調査と同じ回答率ですが、「売上の停滞・減少」の回答率が下がっていることから、受注の回復が窺われます。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	同業者間の競争の激化	37.5%	売上の停滞・減少	35.0%	人手不足	30.0%
当面の重点経営施策	販路を広げる	65.0%	経費を節減する	40.0%	人材を確保する	27.5%

卸売業



景況 ～今期大幅低下 来期は大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは $\Delta 23.8 \rightarrow \Delta 36.4$ と前回調査比**12.6ポイントの大幅低下**となりました(図表3-1)。中国地区D I ($\Delta 15.2$)、全国D I ($\Delta 18.0$)と比較しても大きく下回っており、地域内の物流に停滞感が見られます。

なお、来期の予想業況判断D Iは $\Delta 36.4 \rightarrow \Delta 18.2$ と**18.2ポイントの大幅上昇予想**となっています。

前年同期比売上額D I、同収益D I共にマイナスとなっており(図表3-2)、1年前と比較しても売上、利益とも非常に厳しい状況となっています。

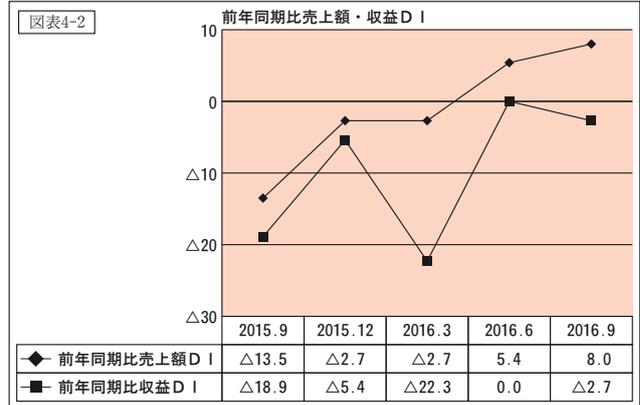
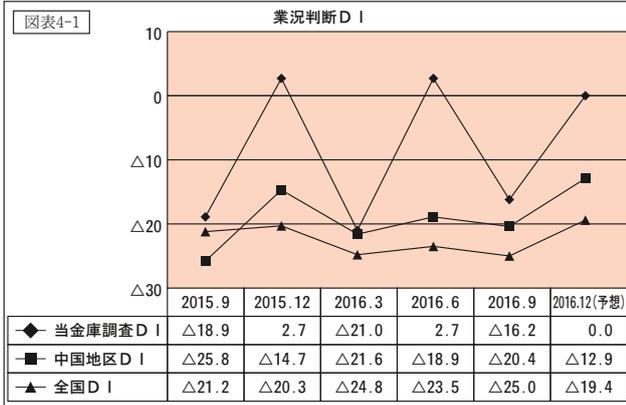
経営上の問題点においては6割近い企業が「売上の停滞・減少」、当面の重点経営施策においては8割近い企業が「販路を広げる」と回答しており、売上確保に向けた販路開拓が最も必要な業種と考えられます。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	59.1%	同業者間の競争の激化	31.8%	利幅の縮小	22.7%
当面の重点経営施策	販路を広げる	77.3%	経費を節減する	50.0%	情報力を強化する	27.3%

小 売 業



景 況 ～今期大幅低下 来期は大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは2.7→△16.2と前回調査比**18.9ポイントの大幅低下**となりました(図表4-1)。なお、来期の予想業況判断D Iは△16.2→0.0と**16.2ポイントの大幅上昇予想**となっています。

「日銀月報」では、岡山県内の個人消費は「底堅く推移」、百貨店・スーパー売上高は「持ち直し」との判断であり、今期大幅低下となったとはいえ、中国地区D I (△20.4)、全国D I (△25.0)と比較しても当金庫営業エリア内における景況感が高めで推移しています。また、調査期ごとに大幅な上昇、低下を繰り返しており、小売業における景況感是不安定なものとなっています。

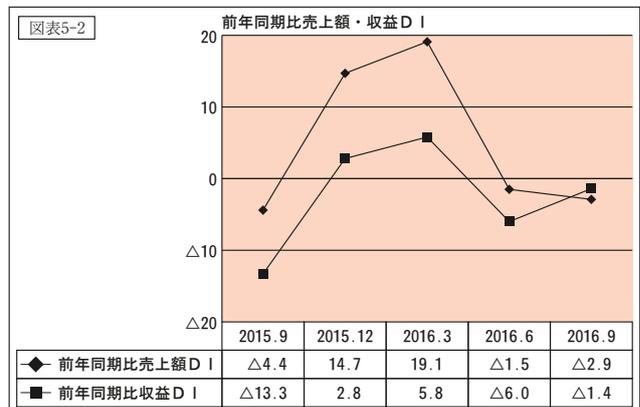
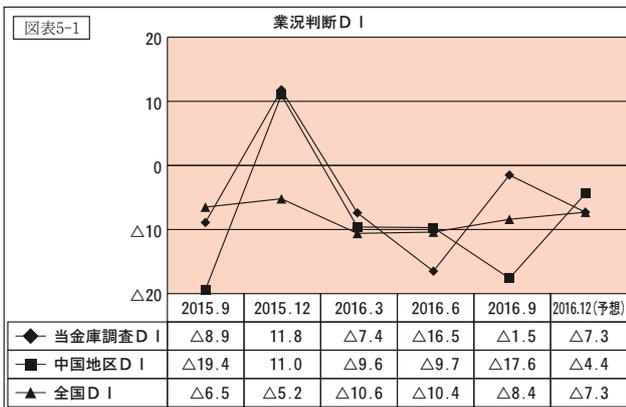
当面の重点経営施策では「宣伝・広告を強化する」との回答率が前回調査の27.0%から50.0%と大幅に上昇しており、商品の周知活動による販路拡大の必要性を感じている企業が多いことが窺えます。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	同業者間の競争の激化	47.4%	売上の停滞・減少	42.1%	利幅の縮小	36.8%
当面の重点経営施策	宣伝・広告を強化する	50.0%	経費を節減する	39.5%	売れ筋商品を取り扱う	36.8%

サービス業



景 況 ～今期大幅上昇 来期は低下の予想～

今期の業況判断D Iは△16.5→△1.5と前回調査比**15.0ポイントの大幅上昇**となりました(図表5-1)。なお、来期の予想業況判断D Iは△1.5→△7.3と**5.8ポイントの低下予想**となっています。

前年同期比売上額D I、同収益D I共に僅かですがマイナスとなっています(図表5-2)。

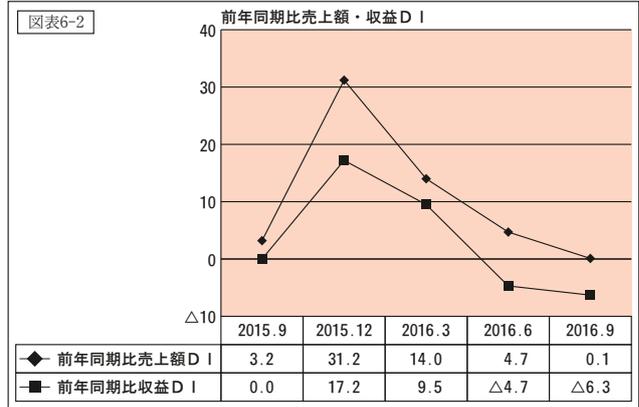
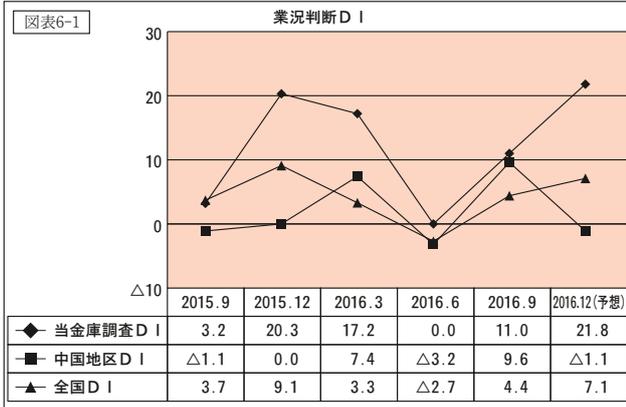
当面の重点経営施策においては「宣伝・広告を強化する」との回答率が前回調査の17.6%から27.9%と大幅に上昇しており、小売業と同じく消費者に向けた周知活動が重要と考える企業が増加しているようです。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	47.1%	同業者間の競争の激化	30.9%	人手不足	23.5%
当面の重点経営施策	販路を広げる	36.8%	経費を節減する	33.8%	宣伝・広告を強化する	27.9%

建設業



景況 ～今期大幅上昇 来期も大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは0.0→11.0と前回調査比11.0ポイントの大幅上昇となりました（図表6-1）。また、来期の予想業況判断D Iも11.0→21.8と10.8ポイントの大幅上昇予想となっています。

「日銀月報」では住宅投資が「持ち直し」、公共投資が「下げ止まり」との判断であり、今年度後半に向けて景況感の回復が期待できます。

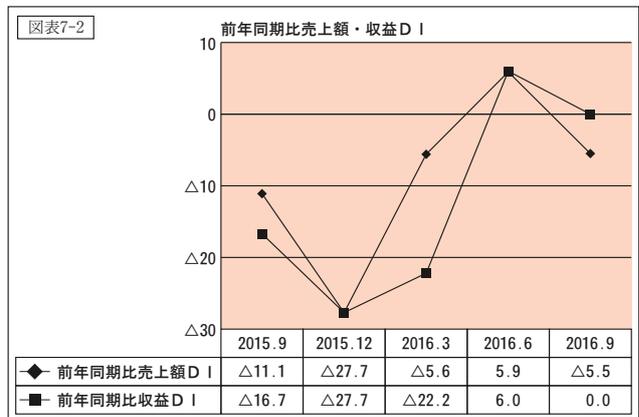
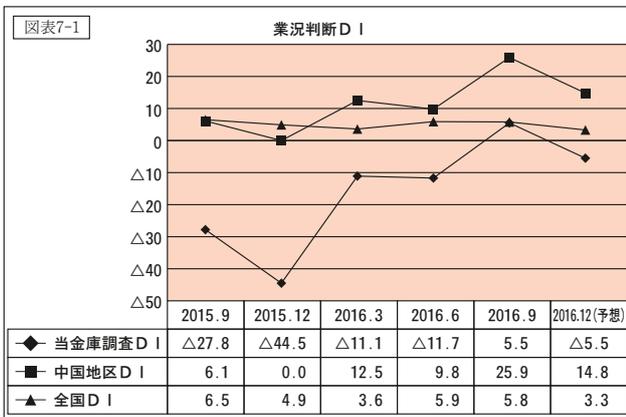
前年同期比売上額D Iはプラスですが、同収益D Iがマイナスとなっており収益性の低下が窺えます（図表6-2）。これは、「同業者間の競争の激化」が受注単価の上昇を妨げているものと考えられます。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	同業者間の競争の激化	43.8%	売上の停滞・減少	28.1%	人手不足	25.0%
当面の重点経営施策	販路を広げる	42.2%	経費を節減する	39.1%	技術力を強化する	25.0%

不動産業



景況 ～今期大幅上昇 来期は大幅低下の予想～

今期の業況判断D Iは△11.7→5.5と、前回調査比17.2ポイントの大幅上昇となり、2015年3月期以来のプラスとなりました（図表7-1）。また、来期の予想業況判断D Iは5.5→△5.5と11.0ポイントの大幅低下を予想していますが、近年の厳しい状況と比較すれば回復傾向にあることが窺えます。

前年同期比収益D Iは±0ですが、同売上額D Iがマイナスとなっており、経営上の問題点における回答率上位2項目『「商品物件の不足」による「同業者間の競争の激化」』が売上増加の足かせとなっていることが窺えます（図表7-2）。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	同業者間の競争の激化 商品物件の不足	50.0% 50.0%	売上の停滞・減少	44.4%	利幅の縮小	27.8%
当面の重点経営施策	情報力を強化する	66.7%	宣伝・広告を強化する	50.0%	経費を節減する	33.3%

調査先企業の声

製造業

- ・外国人労働者を雇用したため人件費が増加しているが、生産能力も向上しており、受注量回復に対応できる体制である。（金属加工）
- ・天候不順、温暖化、海外での海産物消費増加などにより原材料価格が上昇している。（海産物加工）
- ・自社製のゴムチップ製品の品質が高く、大手スポーツメーカーからの受注が順調に推移している。（再生ゴムチップ製造）

卸売業

- ・今夏は気温が高く、天候も不順であったため一部青果が品薄状態となった。仕入価格上昇に伴い販売価格も上げざるを得ない状態が続いている。（青果卸）
- ・ペーパーレス化に歯止めがかからず売上も減少している。（洋紙卸）
- ・流行に取り残されないよう積極的に東京出張を行い、生地を選定を行っている。（デニム製品卸）

小売業

- ・他県の大規模小売店が進出し価格破壊を行っており、売上が激減している。（食料品小売）
- ・ITを活用したマーケティングに取り組んでおり、楽天やアリババ等の海外向けネット販売を強化している。（茶販売）
- ・同業者間の競争が激しく業況厳しいが、固定客は確保しており一定の売上は維持できている。（精肉小売）

サービス業

- ・医療機器の運送という特殊な業務であるため売上安定している。後継者も決まり数年以内の代表者交代を計画中である。（運送業）
- ・人手不足のためアルバイトの人件費を高くせざるを得ず、少なからず経営に影響が出ている。（焼肉店）
- ・取引先の不況、後継者不在のための廃業、世代交代による取引減少など、外部要因の影響で売上確保に苦慮している。（トラック整備）

建設業

- ・岡山における病院の大規模工事がひと段落したため、売上が減少。今後はマンション工場の受注を狙っていく。（内装工事）
- ・一工事あたりの単価が厳しく、減益の予想である。（総合建設）
- ・マイナス金利の影響からメーカーで家を建てる人が増加している。自社はメーカーの下請けであり、受注は増加傾向にある。（基礎工事）
- ・水道工事においても耐震化規格に対応する材料への変更を迫られることが多く、原価率上昇、利益率低下の要因となっている。（水道管、給排水設備工事）

不動産業

- ・最近、土地・建物の動きが活発化しているが、相変わらず物件は不足気味である。（不動産売買）
- ・中古住宅の販売が好調で、当分続くのではないかと。（不動産仲介）
- ・需給バランスが崩れてきておりアパート、賃貸マンションの空室が目立っている。（不動産賃貸）

第18回おかやましんきんビジネス交流会 フリー商談会参加募集のご案内

平成29年4月19日（水）、岡山コンベンションセンター ママカリフォーラムにて「第18回おかやましんきんビジネス交流会」を開催いたします。参加事業者様同士の“商談”と、相談機関等との“相談”を通じて、販路・仕入先の開拓や企業間連携、経営上の課題やお悩みの解決にご活用いただける機会を提供いたします。2月1日（水）よりフリー商談会への参加募集開始となりますので、奮ってご応募ください。

※フリー商談会は、ブースを持たない事業者様にもご入場いただき、参加事業者様同士、自由に商談を行っていただく形式となります。

記

◆開催日時 平成29年4月19日（水） 13:00～16:30

※フリー商談会参加事業者様は14:40より入場が可能となります。

◆開催場所 岡山コンベンションセンター ママカリフォーラム（岡山市北区駅元町14番1号）

◆開催スケジュール

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| ① 開会式 | 13:00～13:20 |
| ② 個別商談会・経営相談会 | 13:30～14:55 |
| ③ <u>フリー商談会・経営相談会</u> | <u>14:40～16:25</u> |
| ④ 閉会式 | 16:25～16:30 |

◆参加費 無料

◆参加申込方法（平成29年2月1日より募集開始）

①営業部店を通してお申込みいただく場合

お取引いただいている営業部店の担当者もしくは窓口にお問い合わせください。入場時に必要となる「案内状」をお渡しいたします。

②ホームページからお申込みいただく場合

下記のおかやま信用金庫ホームページ内「第18回おかやましんきんビジネス交流会」からフリー商談会参加申込書をダウンロードしていただき、必要事項をご記入のうえ、下記e-mailアドレス宛に送付してください。

◆申込期限 平成29年4月17日（月）

以 上

お問い合わせ先

おかやましんきんビジネスクラブ事務局 おかやま信用金庫 営業支援部 担当:小倉

TEL : 086-223-7672

FAX : 086-226-2288

e-mail : sien@okayama.shinkin.jp

おかやま信用金庫ホームページURL <http://www.shinkin.co.jp/okayama/>

調査の要領

- 1) 調査時点 2016年9月1日～7日
 2) 調査対象期間 2016年7月～9月(9月については感触)
 3) 調査対象 250企業(有効回答数250企業・回答率100.0%)
 4) 調査方法 おかやま信用金庫各営業部店の調査員による面談での聞き取り調査
 5) 分析方法 各質問事項で「良い」(上昇)とした企業が全体に占める構成比と、「悪い」(低下)とした企業の構成比との差(判断DI)を中心に分析
 ※DI=ディフュージョン・インデックスの略
 一般にプラスは好調、マイナスは不調を示す(仕入価格DIについては逆)
 6) その他 全国DIならびに中国地区DIは、全国の信用金庫が中小企業約16,000先を対象として調査し、信金中央金庫が取りまとめた数値を使用

(単位:先、%)

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
回答企業数	40	22	38	68	64	18
回答率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

従業員数

(単位:先)

業種 (単位:人)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
0～9	20	15	30	47	51	16	179	71.6%
10～19	8	4	2	5	10	2	31	12.4%
20～29	6	2	2	9	2	0	21	8.4%
30～49	1	0	3	3	1	0	8	3.2%
50以上	5	1	1	4	0	0	11	4.4%
計	40	22	38	68	64	18	250	100.0%
構成比	16.0%	8.8%	15.2%	27.2%	25.6%	7.2%	100.0%	

資本金等

(単位:先)

業種 (単位:千円)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
10,000未満	19	7	23	36	32	8	125	50.0%
10,000～49,999	18	15	14	29	32	10	118	47.2%
50,000～99,999	3	0	1	2	0	0	6	2.4%
100,000以上	0	0	0	1	0	0	1	0.4%
計	40	22	38	68	64	18	250	100.0%
構成比	16.0%	8.8%	15.2%	27.2%	25.6%	7.2%	100.0%	

お客さまへのインタビュー

岡山市で印刷業を営んでいる事業者様にインタビューを行いました。

～事業の内容・現状について～

岡山市内で印刷、製本業を営んでいます。世間全体の流れとしてペーパーレス化が進んでおり、徐々にではありますが、受注量も減少傾向にあります。当社は比較的若い従業員が多く、デザイン力が高い点が強みと考えており、この点を活かした新たな取組を模索中です。

～当面の重点施策について～

従来の業務だけでは先細りであることが目に見えています。印刷だけでなくお客様の真のニーズがどこにあるのかをよく考え、デザインやレイアウトなどの提案、印刷にかかる周辺サービスの充実を図っていきたくと考えています。

～将来像～

お客様の情報発信にかかる様々な手段に対応できる企業になりたいと考えています。紙媒体に加えITを活用した発信手法など、今後発展が見込まれるジャンルへの挑戦を続けていきます。

編集後記

今回調査にて全業種総合で業況判断DIは△2.8と3期連続でマイナスとなりました。業種による景況感のばらつきが大きく、卸売業、小売業、サービス業といった個人消費に直結する業種でマイナスとなっています。「日銀短観」では個人消費は「底堅く推移」との判断ですが、大手との競合が厳しく、地域の中小店舗は苦戦していることが窺えます。また、次回調査期間における業況判断DIはプラス(4.8)と予想されており、全体的な景況感の回復が期待できます。

おかやま信用金庫は、地元岡山の事業者様の事業価値向上に向けたお手伝いとして、経営上のお悩みや、販路拡大、新たな事業展開等、様々な課題の解決に全力で取り組んでまいりますので、引き続きよろしくお願ひします。



おかやま信用金庫
営業支援部

— 2016.1 —

〒700-8639 岡山市北区柳町1丁目11番21号
 TEL 086 (223) 7672 FAX 086 (226) 2288
<http://www.shinkin.co.jp/okayama/>
 E-mail: sien@okayama.shinkin.jp